

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 駒ヶ根市

1 事業の趣旨・目的

学習者の能力やニーズを見極め、学習者の学習が継続し、かつ、短期間で効果のある日本語教育を実現するための、日本語ボランティアの日本語教育能力及び教室運営（コーディネーション）能力の向上

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月6日 18:00 ～19:30	駒ヶ根市役所 本庁舎1階 第1会議室	高坂 保 Sugawara Emilia Megumi 春原 直美 関井 朱美 松岡 純子 松崎 伸司 事務局3人	第1回運営委員会 ・運営委員長選出 ・講座内容検討	委嘱状交付、主催者挨拶、自己紹介、運営委員長選出（高坂保）、事業概要説明、講座内容検討
2月10日 18:30 ～20:00	駒ヶ根市役所 本庁舎3階 第3委員会室	高坂 保 春原 直美 関井 朱美 松岡 純子 松崎 伸司 事務局2人	第2回運営委員会 ・事業実施状況報告 ・今後の事業方針	運営委員長挨拶、事業実施状況報告（研修概要、出席状況、振り返りシートの内容確認）、最終回に向けて
3月9日 18:30 ～20:00	駒ヶ根市役所 本庁舎1階 第2会議室	高坂 保 春原 直美 関井 朱美 松岡 純子 松崎 伸司 事務局3人	第3回運営委員会 ・事業実施状況報告 ・事業のふりかえり ・今後の展望	運営委員長挨拶、事業実施結果報告、成果と課題（研修目標に対する達成状況、成果、受講者の人材活用、今後の人材育成方法、今後の地域日本語教室）

【写真】



3 講座の内容について

(1) 講座名 平成 23 年度「日本語ボランティア・コーディネーター研修」

(2) 目標

学習者の能力やニーズを見極め、学習者の学習が継続し、かつ、短期間で効果のある日本語教育を実現するための、日本語ボランティアの日本語教育能力及び教室運営（コーディネーション）能力の向上

(3) 受講者の総数 32 人

(出身・国籍別内訳 日本 29 人、ペルー 1 人、中国 1 人、ブラジル 1 人)

(4) 開催時間数(回数) 25.5 時間 (11 回)

講義 22.5 時間 (9 回) 実習 3 時間 (2 回)

(5) 参加対象者の要件

次の両方を満たす方

- ①日本語学習ボランティアの経験年数が原則 2 年以上、又は、意欲のある方
- ②市内にお住まいの方、又は、市内で日本語学習に関わる予定・意思のある方

(6) 受講者の募集方法

・募集チラシの配布

(市及び近隣市町村関係機関、日本語教室、商業施設等へ配布)

・当市のウェブページに掲載

・プレスリリース(結果、6 月 11 日付け朝日新聞 28 面等に掲載)

(7) 会場

ア 講義 駒ヶ根市駅前ビル市民交流活性化センター 多目的ホール、大会議室

イ 実習 駒ヶ根市福祉センター 3階 会議室

(8) 使用した教材・リソース

講師オリジナル教材

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月23日 13:30～16:00	「生活者としての外国人」の ための日本語とは	春原 憲一郎 ((財)海外技術者研修協会 日本語教育センター長)	18人
8月6日 13:30～16:00	防災における日本語ボランテ ィアの役割	羽賀 友信 (長岡市国際交流センター長)	20人
8月20日 13:30～16:00	災害と日本語ボランティア	田村 太郎 ((特)多文化共生センター大阪 代表理事)	23人
10月1日 13:30～16:00	多様なボランティア日本語学 習の場		19人
10月29日 13:30～16:00	学習者にとって魅力的な日 本語学習の場づくり(1)	堀 永乃 ((財)浜松国際交流協会主任 ・日本語コーディネーター)	19人
11月26日 13:30～16:00	学習者にとって魅力的な日 本語学習の場づくり(2)		13人
12月3日 10:00～11:30	授業指導		17人
12月3日 13:30～16:00	ボランティアが積極的に関わ りたくなる日本語学習の場づ くり(1)		
1月28日 10:00～11:30	模擬授業		16人
1月28日 13:30～16:00	ボランティアが積極的に関わ りたくなる日本語学習の場づ くり(2)		
2月25日 13:30～16:00	日本語教室と日本語ボランテ ィアの展望		16人

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

第 x 回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	全体評価
回答者数	16	7	16	16	18	11	14	16	14	(%)
大変良かった	14	4	13	15	16	10	12	15	12	87
良かった	2	3	2	1	2		2	1	2	12
普通										
悪かった										
非常に悪かった										
無回答			1			1				1

② 実施主体からの研修内容結果評価

講座目標を達成するために、①総論から各論へと進む研修内容、②前回講座の成果と課題を生かすために同一講師による複数回の研修、③研修内容をより具体的に理解するための実習、といった工夫を研修計画に盛り込んだ結果、一定の成果があった。特に、実際の日本語学習の場で課題となっている事項(カリキュラム及び教案作成)について具体的なテコ入れができ、講座の最終回には、講座開始前には見られなかった受講者の自信を垣間見ることができた。

この反面、実習の回数が予定よりも少なかったことや、研修の中で練習時間をしっかりとれなかったことなどが影響し、研修で得た知識を現場で生かすまでの定着が図られたかどうかは、受講者アンケートの結果をみても課題が残る結果となった。

また、経験年数や求める役割などにより受講者のターゲットをさらに絞り込むことや、日本語教育以外の能力開発の研修を組み込むことなどにより、受講者の満足度を一段と高めることができたのかもしれない。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

在住外国人に対するコミュニケーション支援は、「多言語化」と「日本語学習」の 2 種類が考えられるが、前者はすべての母語に対応しきれないことと、「生活者としての外国人」を考えたときに、過度な多言語化は自立に逆効果であると考えことから、今後後者に重点をおいた取り組みを進める。

この際、平成 23 年度に開発した「駒ヶ根市 日本語学習システム」による日本語学習事業を、平成 24～26 年度の 3 年間、「市、日本語を母語とする市民、しない市民」の 3 者の協働で実施し、①効果的な日本語学習手法の普及、②日本語学習に関わる人材育成を目指し、「言葉と心の壁」を超える取り組みを進める。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

実習の場を、市が委託し実施する日本語教室で行ったことで、受講者以外の日本語ボランティアや学習者にも良い刺激があり、以降の日本語教室活動の改善につながった。

② 研修後の人材活用

受講者は、地域の日本語ボランティア教室で他のボランティアに対する指導者的な役割を担うことが期待されている。また、上記システムの日本語コーディネーターや日本語ボランティアとしての中心的な関わりも期待されており、これを通じて新たな日本語教室を開設していただける有用な人材として期待されている。

(12) 今後の課題

受講者が本講座で得た知識を現場で生かして初めて本事業を実施した意味がある。よって、来年度以降、その際に課題となることをフォローアップすることにより、研修内容の定着を促す必要がある。

また、現在、一般的に、日本語ボランティアは「特別な人しか務まらないもの」というイメージが強いが、市民誰もが日本語ボランティアとして活躍できる環境を整え、日本語学習の場の「敷居を下げる」取り組みが、「言葉の壁」だけでなく、地域の課題である「心の壁」も超える上で必要不可欠である。